



子育て情報 6月号

平成 29 年 6 月
椋山女学園大学附属幼稚園

6月を楽しむ

園長 横尾 尚子

2016年から8月に祝日(山の日:8月11日)が設けられ、唯一祝日がない月になってしまった6月。入梅(梅雨入り)の月でもあり、ここから1ヶ月~1ヵ月半の間は雨の季節。子ども達は外で遊べないし、洗濯物も乾かない。湿度が高くてジメジメ、ムシムシ。つついイライラしてしまう6月ですが、楽しいことを探してみましょ。

6月1日は椋山女学園の創立記念日。112回目のお誕生日です。「女性に高い教育の機会を提供したい」という創立者の願いは、百年を超えて女性の自立を応援し続けてきました。その中で誕生した幼稚園も今年75周年を迎えます。10月には記念の保護者向け講演会を企画中です。ぜひご参加ください。

お誕生日のプレゼントに、お花はいかがでしょう。6月の長雨は植物にとってはめぐみの雨。薔薇に紫陽花、百合、菖蒲、梔子(クサソ)などなど、美しい花々が咲き競います。中でも薔薇の美しさは格別ですが、6月の花といえば、やはり紫陽花でしょうか。緑の葉に青や紫、ピンクや白のボリューム感のある花をつけ、雨の薄暗さの中で咲く姿はそこだけほんのり明るくて、立ち止まらずにはいられない風情があります。花言葉は「移り気」。あれあれ、あまり良い言葉ではありませんね。調べてみると、紫陽花は土壌の酸性度によって花の色がよく変わることから、この花言葉が付けられているようです。そう言えば、子育ての土壌は家庭や園ですね。子ども達が自分色の花を精一杯咲かせてくれる日を楽しみに、土壌整備にいそしみましょ。まずは、6月4日の「親子ふれあいDay」をたっぷりお楽しみください。

6月の英語名 June はジュピターの妻の名「Juno」に由来し、Juno が結婚や女性の権利を守護するローマ神話の女神であったことから、「6月の花嫁は幸せになる」という説が生まれ、ジューンブライドが喜ばれる一因となったようです。日本では、梅雨の長雨で結婚式数が落ち込む6月の打開策として、ブライダル産業が宣伝し広めたそうですが、6月のイメージアップにかなり貢献していると思います。

この幸せな結婚を守護する6月に、やがて生まれてくる子ども達の幸せについて考えてみませんか。6月19日、昨年に引き続きジンバブエから「ジャナグル」の子ども達がやってきます。イギリス植民地からの独立(1980年)とその後の激しい内戦で、多くの犠牲者を出すとともに、失業率94%の最悪なインフレ経済にあえぐジンバブエ。日本人女性高橋朋子さんは、そのような状況の中で生まれ育っていかねばならない子ども達の存在に強い問題意識を持ち、現地に伝わる伝統的な楽器の演奏や踊りを通して教育の機会を提供する「ジャナグル・アートセンター」を設立。諸外国へ演奏旅行をすることで、国際交流を目指した活動を展開されています。「ジャナグル」とは、ジンバブエの公用語であるシャナ語で「明るい月」の意味。満月の夜、長老は子ども達を外に集め、大人として生きるための様々な教を施すそうです。その夜の呼称が「ジャナグル」。とにかくパワフルな彼らの演奏で、梅雨のうっとうしさを吹き飛ばしましょ。その後、ケニアのストリートチルドレンの支援を中心に活動されている「MOYO(モヨ)チルドレンセンター」の松下照美さんのお話を聴きます。現地の子供達から親しみを込めて「テルミ」と呼ばれている松下さんから、どのようなお話が聴けるのか、楽しみでなりません。

子ども達の未来と一緒に考えませんか。6月20日の千種支部PTA総会(ルブラ王山)での研修会にも、「ジャナグル」と松下照美さんをお招きしています。こちらへのご参加も大歓迎です。ご案内は別便で。